

令和6年度青梅市ジェンダー平等推進計画進ちょく状況評価一覧

資料6-2

目 標	課 題	事業数	令和6年度進ちょく度評価			
			A	B	C	D
Ⅰ ワーク・ライフ・バランスの推進と働く場における女性活躍推進	1 ワーク・ライフ・バランスの推進	3		3		
	2 働く場におけるジェンダー平等の推進	5		5		
	3 女性の就業支援	5		5		
	4 子育て・介護への支援	13		13		
Ⅱ 社会のあらゆる分野におけるジェンダー平等の推進	1 行政・防災分野におけるジェンダー平等の推進	4		4		
	2 地域・家庭におけるジェンダー平等の推進	6		6		
	3 生活の安定と自立の支援	12		12		
	4 生涯を通じた心と体の健康支援	6	1	5		
	5 様々なマイノリティの支援	2		2		
Ⅲ 人権の尊重によるジェンダー平等の意識づくり	1 ジェンダー平等の啓発	7		7		
	2 ジェンダー平等意識を推進する教育・学習の充実	7		7		
Ⅳ 配偶者等暴力対策	1 配偶者等からの暴力の防止	9		9		
Ⅴ 総合的な計画の推進	1 推進体制の強化・充実	4		4		

令和5年度進ちょく度評価に対する懇談会の意見	
○	ワーク・ライフ・バランスの講座へ参加する企業が増えるよう、市からも積極的なPRに努められたい。
○	労働相談や労働者への支援など、需要が高いものは相談日を増やすなど検討されたい。周知についても、配架する以外にも情報を広げる方法がないか検討されたい。
○	就業機会の増加として就職ナビなどもあるが、ハローワークは対面式でのフォローなどが充実していると考えられるため、女性活躍推進の面から講座等できるように協議していただきたい。
○	保育所の待機人数が以前より減ったのは評価できるが、純粋に子どもの数が減ったことによるものであれば、それを食い止める施策が必要になってくると考える。児童施設以外に、老人施設の空き情報も利便性向上のために検討していただきたい。
○	避難所運営における女性の配置割合が高いのは良いと思う。あとは、女性ならではの意見がどの程度反映されているのかは注視する必要がある。防災分野は、より広く市民から率直な意見を聞く機会を設けていただきたい。
○	子ども・母子・DV・ジェンダー等、全部を包括する、ワンストップ的なセンターの設置に向けて検討いただきたい。
○	子どもが生まれる前からひとり親家庭と判明している方については、早くから関係部署同士の連携ができるよう情報の共有されたい。
◎	健康ポイントアプリ事業を立ち上げ、健康管理意識の高揚に寄与したことは評価できる。スマートフォンも普及し、高齢者などの加入が増えることで、よりスポーツに親しめる環境作りを推進されたい。
○	国際交流ボランティア活動の促進は、青梅マラソンの語学ボランティアに限らず支援の一環として活用できる場所を探していただきたい。
○	託児付き講座の増加や、不健全図書類の販売自粛要請については、これからも取り組みを進めていただきたい。
○	意識付けには、教育現場が一番の早道になる。デートDV講座の対象年齢の引き下げや、ジェンダー平等に限らず、他人に威圧的な行動をとってはいけないこと、ハラスメントをしてはいけないことを早くから教育で教えていただきたい。
◎	ひとり親家庭等自立相談件数は661件ということで、毎日2件3件ある計算になる。相談員2人で対応しきれんのか疑問が残る。すぐに増えるものではないかもしれないが、件数が多いので相談体制を拡充していただきたい。
○	ジェンダー平等の職員研修は、ジェンダー平等に対する意識が希薄にならないよう、できるだけ継続して実施されたい。